

<p>文学・哲学・言語</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 言葉（詩）の音楽性</p> <p>□ 英米愛モダニズム文学と能狂言、俳句</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 言葉(詩)の音楽</li> <li>■ アイルランド</li> <li>■ エズラ・パウンド</li> <li>■ W.B. イェイツ</li> <li>■ アーネスト・ヘミングウェイ</li> <li>■ 能狂言</li> <li>■ 小泉八雲</li> </ul>	<p>私の専門領域は、英語で書かれたアメリカとアイルランドの文学である。特に二点を中心に研究を行っている。一つは文学に用いられる言葉の生み出す音楽、今一つは西洋と東洋の出逢いである。教育面では、学生が生きた英語を運用できる能力を身につけて、自らの考えを英語で発信し、世界の人々と共に課題に取り組めるようになるための英語教育、また、将来どのような世界に進もうと人生をさまざまな切り口で見る助けとなる文学を提供している。私が研究対象にしている愛米モダニズム文学者は、日本の文学や芸能との出逢いで新しい作品を生んだ。「東洋、日本」という異なる世界が、既存の見方に新境地を開いたのだ。そのように他を排除せず、違いを認めて、自分に取り込むことは、課題解決にも必要な態度である。逆説的に聞こえるかもしれないが、変化や新しい切り口は、伝統や既存の文化を深く理解した上で、生み出される。これも学生に伝えたいことである。</p>
	<p>独自の「言葉」により新しい文学を生んだ英語圏文学者、なかでもアメリカ出身のエズラ・パウンドとアーネスト・ヘミングウェイ、アイルランドの血をひく W.B. イェイツと小泉八雲の日本との関わりが現在興味のある中心にある。パウンドを中心に繋がる芸術家が、急激な変化を遂げた時代を語るその「声」は、時代の特性を表すと同時に、古来の「伝統」を内包し、時空を超えた世界を生み出している。イェイツはパウンドを通じて能狂言と出会い、リアリズムや象徴主義では行き詰まりを見せていた劇作に新しい息吹を吹き込んだ。能狂言との出逢いで生まれたイェイツとパウンドの作品、特に見過ごされていた狂言、そして能の鎮魂性と狂言の笑い。注目されてこなかったヘミングウェイの詩を総合的に研究している。日本人のなかでは画家久米民十郎、キリスト教労働運動家賀川豊彦の愛米モダニストへの影響に着目している。</p>
<p>真鍋 晶子 Akiko Manabe</p>	<p>国内の発表に加え、毎年国際学会で論文発表し、国際研究交流を行い、例えば招聘では2015年サラゴサ大学での日本と個人主義学会、2019年韓国での World Humanity Forum、2021年韓国イェイツ協会、2016年第一回国際イェイツシンポ（バルセロナ）の基調講演、2018年12月京都での第二回国際イェイツシンポ「イェイツと笑い」（企画運営も担当）の基調発表、などに招かれた。フランスの学術誌、コーク大学出版局やオックスフォード大学出版からの学術書への寄稿を依頼された。また、2017年日愛外交関係樹立60周年記念事業のひとつとして、在アイルランド日本大使館、在日アイルランド大使館の支援を受け、イェイツが狂言として書いたにも拘わらず日本語の狂言として演じられたことのない『猫と月』、および小泉八雲の作品に基づく新作を京都の狂言の名家茂山千五郎家により、アイルランドにおいて上演することを実行委員長として企画、大成功をおさめた。俳優佐野史郎氏、音楽家山本恭司氏、小泉八雲曾孫小泉凡氏による「小泉八雲朗読」の公演企画にも関わり、彦根の古刹清凉寺での2回の上演を企画するなど、これらモダニズム期の文学者がいかに現代に生きるかを日本の伝統を踏まえた形で実践することも研究の一旦としている。上記狂言公演、小泉八雲朗読は、茂山千五郎家、佐野史郎氏、小泉凡氏を招き、滋賀大学文化企画 Shiga U Arte としても実現した。</p>
<p>経済学部 教授</p>	<p>企業・自治体へのメッセージ</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門分野             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ文学</li> <li>・アイルランド文学</li> </ul> </li> <li>【略歴】</li> <li>1960年 京都市生まれ</li> <li>1984年 京都大学文学部卒業</li> <li>1988年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了</li> <li>1994年 カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校修士課程修了</li> <li>1996年 滋賀大学 経済学部 講師</li> <li>1998年 同 助教授</li> <li>2005年 同 教授</li> <li>【主な社会的活動】</li> <li>・International Yeats Society (Board Member)</li> <li>・日本エズラ・パウンド協会(理事・会計監査)</li> <li>・日本ヘミングウェイ協会(運営委員)</li> <li>・日本イェイツ協会(理事・編集委員)</li> <li>・IASIL JAPAN(理事)</li> <li>・日本アイルランド協会(事務局長・理事)</li> <li>・彦根市教育委員会 指定管理者候補者選定委員 / 事務点検・評価委員会委員</li> <li>・空の旅人舎代表</li> <li>・2017年日愛外交樹立60周年事業茂山千五郎家狂言アイルランド公演実行委員会委員長</li> </ul>	<p>「これまで、彦根市、甲良町などの自治体や、商工会議所、また日本大使館やアイルランド大使館などの協力を得て、私自身が専門としておりますアイルランドやアメリカの文学者が日本との出逢いによって生み出した作品の公演やそれに伴う講演、シンポなどを企画運営することで、古今東西を問わず、普遍的な問題を現代の目で問い直し、それを未来へ継承することの重要性をご一緒に、楽しく考えられる場を提供してきました。こういった活動を、自治体や企業のご協力を得て続けて行きたいと思っています。」</p>